

はじめに

みんなに本をすすめたい！

みなさんがこれまで読んだ本の中に、お気に入りの一冊はありますか。感動したり、ワクワクしたり、ドキドキしたり、新しいことを知ったり……、そんな読書体験ができるお気に入りの本を、友だちにも読んでもらいたいと思いませんか。

本の中には一つの世界があります。ページを開いて読み進めると出あうことなどができますが、読んでみないとけっして出あうことはできません。あなたのお気に入りの本とまだ出あえていない人に、その本を手にとってもらうにはどうしたらいいのでしょうか。

あなた自身がまず一冊の本の世界をよく知り、「本を読んで感じたこと」「その本が伝えたいこと」「手にとってみたいと思わせるアピールポイント」などを考えてみましょう。そして、その本がもつ魅力をいろいろな方法で表現し、みんなにとどけてみましょう。

この本では、「表紙作り」「帯作り」「ディスプレイ作り」を取り上げます。表紙や帯は、本の「顔」のようなものです。表紙ではイラストやデザイン、帯ではキャッチコピーなどで本の魅力を伝えます。ディスプレイでは、テーマに合った本を集めて、作った飾りといっしょに目立つように展示します。

みんなで図書館活動 この本、おすすめします！

②自分だけの表紙・帯を作ろう

もくじ

【はじめに】みんなに本をすすめたい！ 2

表紙や帯はなんのためにあるの？ 4
表紙、帯作りの準備 6

表紙を作ろう

①表紙の作品を見てみよう 8
②台紙を作る 10
③絵と文字で表現する 12
④仕上げる 14
パソコンで作る表紙 16

帯を作ろう

①帯の作品を見てみよう 18
②キャッチコピー、紹介文を書く 20
③仕上げる 22

ディスプレイを作ろう

①本のディスプレイって？ 24
②テーマを決める 26
③デザインしよう 28
④飾りを作ろう 30



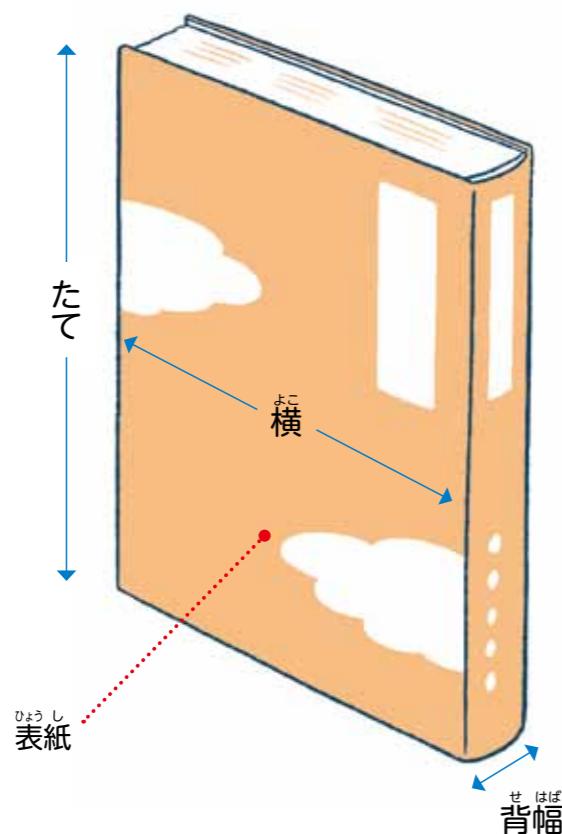
表紙を作ろう

② 台紙を作る

表紙の土台となる台紙を作つていきます。本の大きさはそれぞれ違うので、選んだ本のサイズを正確にはかることが大切です。下絵用の台紙は何枚か作つておくとよいでしょう。本番用の台紙は後で作ります。

本のサイズをはかる

選んだ本の大きさをはかりましょう。表紙のたて、横の長さ、背表紙の幅（背幅）を定規ではかっておきます。表紙と裏表紙の位置も確認します。



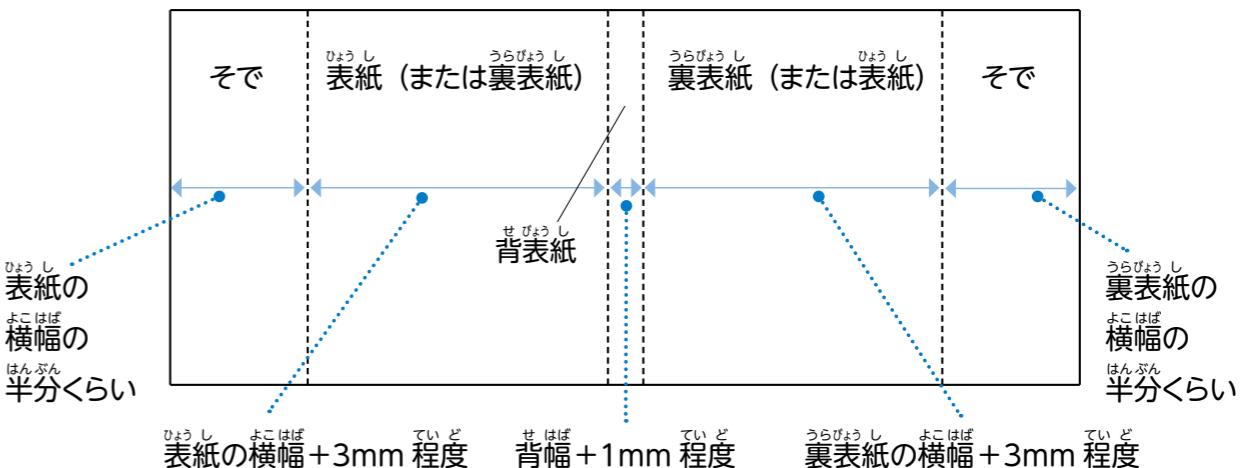
ぼくらが選んだ本は、
たて 148mm、
横 105mm、
背表紙 11mm だよ！
カバーの左側が表紙だね。



台紙を作る

まず、下絵用の台紙を作りましょう。下絵用の紙に、はかっておいた本のサイズにもとづいて展開図を描きます。本にくこことを考えて、表紙・裏表紙の横幅にはそれぞれ3mm程度の余分をもたせます

(表紙に厚みのあるハードカバーの本なら5mm程度)。そでは表紙の幅の2分の1くらいの大きさがあればよいでしょう。大きな紙がない場合は、それぞれのパツをはり合わせます。



よくある本のサイズ

本の大きさはだいたい右のように決まっています（出版社によってサイズは少し変わります）。四六判、菊判は小説などの単行本によくある大きさです。

表紙のデザインだけでなく、本の大きさにも、それぞれの作品の個性が表れています。

文庫本
新書

たて 148～152mm × 横 105mm

たて 173mm × 横 105mm

コミックス
単行本（四六判）

たて 174mm × 横 112mm

（四六判）

たて 188mm × 横 127mm

（菊判）

たて 220mm × 横 150mm

おび
帯を作ろう

② キャッチコピー、紹介文を書く

おび
帯をまく目的は「この本、読んでみたいな」と思ってもらうことです。そのためにイラストやデザインで主張するものもありますが、ここでは本をおすすめするためのキャッチコピーと紹介文の書き方についてとり上げます。

キャッちコピーを書く

キャッちコピーは、基本的に短い文章です。短いことで、かえって想像力をかきたてる効果があります。短歌や俳句は文字数が少ないにもかかわらず、詠まれた場面が豊かに思いうかびます。それと似ています。制作メモ（P.7）を利用してキャッちコ

ピーを作りましょう。読んで感じたことや、印象的な場面、または本と出あったときの思いなどでもかまいません。一度書いてみて、それを短く、リズムのよい言い回しに置きかえてみるとよいでしょう。

キャッちコピーのポイント

① 気を引く

呼びかける、ハッとする言葉を使う

まじめな言葉づかいもいいけど、おしゃべりのような口調もありだね！



『走れメロス』のキャッちコピーを考えてみたよ！

② 共感を生む

自分の感情や行動を書く

③ 必要な人に伝える

読んだらどんないいことがあるかを具体的に書く

●人質が助からない!? ジャマ入りすぎ！ ドキドキハラハラ

●ちゃんと走ってなくない?
メロス、本気出して！

「えっ」と思わせる表現だね。



●「もう、やめた」メロスでも投げ出したくなるときがある!?

●どうして、そんなに走るのか!!

●マラソン大会に強くなる!?

●命より大切なものがある



具体的な数字で、すぐ読めることがわかるよ。

●30分で読める名作

スピード感がでているね！

●歴史に残ったランナー



紹介文を作る

紹介文は、「本がどんな内容だったか」を友だちにかんたんに説明するつもりで書いてみましょう。帯のスペースは限られているので、100字程度を自安にしてください。

書く要素としては「あらすじ」「お気に入りの場面の紹介」「感想」「読む必要性」

などがあります。これらから一つ、または組み合わせて紹介文を書きましょう。「あらすじ」の場合は、物語全体について書かなくてもかまいません。「続きを読みたいんだどう?」と思わせるために、事件がはじまるところまでを書き、その後の展開はふせておくのが効果的です。